



# 日本女子大学

家政学部：住居学科

DATA

〒112-8681

東京都文京区目白台2-8-1

☎03-5981-3786

www.jwu.ac.jp

## 真の自立と生涯学習の精神で 社会に貢献する人材を育成する

創立107年の今年、創立者・成瀬仁蔵の生誕150年にあたる。福沢諭吉、新島襄と並んで近代日本の三大教育者と称される成瀬氏が生涯を捧げた女子高等教育の発展。その結



実が、わが国初の女子高等教育機関である日本女子大だ。氏が晩年に残した「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の三綱領は、大学の教育綱領として継承されている。



女性の自立という意識の必要性を説き続けることで、時代と人々を変えて成瀬氏の教えもまた受け継がれ、仕事人として、人間として素晴らしき女性を数多く輩出し続けている。

### Pick Up the 自慢の環境

大きな写真は有形文化財に指定されている成瀬記念講堂。みんなの視線の先、壇上には成瀬氏自筆の綱領が掲げられている。赤煉瓦の校門、成瀬記念館など、建築的にも優れたレトロな建物が立ち並ぶ目白キャンパスだが、校舎群はいずれも最先端の設備を整えた優美でスタイリッシュなビル。女子大ならではの華やかな雰囲気彩られる学食、東京タワーや富士山も一望できる屋上庭園など、恵まれた環境で大学生活を満喫。



建築学部  
住居学科 4年  
谷辺愛美さん

「生活を科学する」つまり生活の質の向上と人類の健康、安全、福祉に貢献する実践的総合科学を学ぶという家政学部。その中に属する住居学科で教鞭を執る石川孝重教授は、建築構造教育や建築構造における災害対策の第一人者として知られている。

「もともとは2年の約束でこの大学に来たんです。ところがここで、それまでの構造という箱モノの研究だけでなく、その構造の違いによって中で暮らす人がどのような影響を受けるかということをよくわしく研究するようにになった。それが面白くていつの間にか26年たっていました(笑)」。

家政学部住居学科であることのユニークさは、教授にとつても興味深かったのだろう。難解とされ、苦手意識をもつ学生が多い構造を女子に教えることについても「女子には真面目な学生が多く、きちんと教えればしっかりと応えてくれます」。

そのために教え方の工夫にも大変な力を注ぐ。講義は学生参加型。キッチンスケールなど身近な道具を使い、建物の各部にかかる荷重を測る。風が吹いたらどうなるかを扇風機で再



「どんな知識も経験も建築には関わってくる。面白くて難しいです。」

「暮らしに密着するからなんでも楽しめる。建築は女性向きだと思う。」

One of the 自慢の講義

現し、地震を模してテーブルを揺らすなど、暮らしにまつわる様々な事象が建物に与える影響を目で見ながら説明。わかりやすさを常に追求し、磁石を利用した鉄棒と球体のオリジナル教材を開発してしまっほど。

「一般論をしゃべるより、本人がしたこと、考えたことに対して解説します。自分に関係ないことはやる気になれないし、自分が学んでいることの必要性、その意味がわからなければ、理解しにくい。興味や動機づけをもたせ



建築学部  
住居学科 教授  
石川孝重先生

れば、そこから飛躍的に理解度が高まるんです」。

そんな石川教授の講義は、建築教育の研究会などで取り上げられることも多い。「ゼミ生も」教えることが大好きな先生」と口を揃える。ただし、教えることに熱心で学生のためを考えればこそ、指導には厳しい一面も。

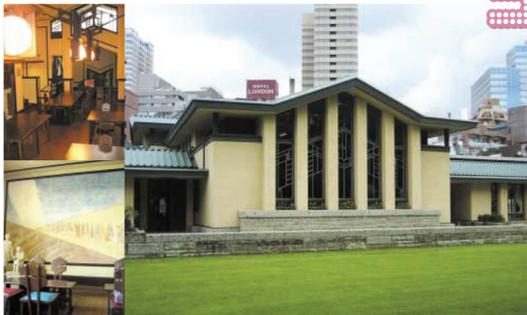
「石川先生のゼミを選んだ時、友達に大丈夫？って心配されました(笑)」というのもまた一致した意見。だからこそ、ゼミで培った知識や学びの姿勢がみんなの笑顔をより輝かせているのかもしれない。

「自分がつくったものを自己完結だけじゃなくて対外的に見せられるものに仕上げたい。そう考えて石川教授のゼミを選んだという渡辺愛美さん。防災の絵本をつくるという卒論も大詰めを迎えている。

「自分の知識をひとりでも多くの人に伝えたい。みんなで役立ててほしい。石川先生からそういう姿勢を学びました。自身の研究や学生指導だけでなく、学会や研究会にも引張りだいで忙しいのに、とても世話好きで、いつも学生のことを心配してくれます」。



周辺のみどころ  
TOP



1921年創立の自由学園の校舎として、フランク・ロイド・ライトが設計した明日館は重要文化財。簡素な外形の中に優れた想いを充たすことが基調とされた。



2 元総理大臣・鳩山一郎の私邸として、1924年建設の鳩山会館。英国風洋館の内部には日本家庭的な空間も。



3 日本の超高層建築・複合施設の先駆けとなったサンシャインシティ。30周年を迎えた今も進化し続けている。



4 1964年、丹下健三の手によって設計された東京カテドラル聖マリア大聖堂は、上から見ると十字架の形に。



5 豊島区が跨る総合芸術文化施設、東京芸術劇場は戸原義信の設計。コンサート、バレエ、オペラなど様々な催しが。



建物は人のためにある  
そんな基本を突き詰めて  
より居心地のいい建物を

そんな教授の指導も功を奏してか、ゼミ生は全員、建築につながる企業の内定が。すでに建築士資格取得のための勉強を始めている人もいる。「建築の魅力は、暮らしのすべてに関わっていること」。5人の卒論テーマもバラエティ豊か。つまり石川教授の

研究テーマも幅広いということだ。最高水準の振動実験設備を備えた実験室では、手製のシステムで設置した10台のカメラやコンピュータの連携で、どの角度からも細部までわかりやすい実験講義を実現。クレーンや、100トン（1000キロニュートン）コンクリート実験装置を備えた工場のような実験室にいと、ここが女子大であることを忘れてしまえば、実際に女子大はもちろん、普通の大学の建築学科でも、ここまでの設備を備えるところはめずらしい。「この3次元振動設備は、観測した通りのあらゆる振動波：たとえば阪神大震災の振動波を再現することもできます。外部からの委託で実験や研究をすることも多いんですよ。」

「ほら、先生また夢中になっちゃいますよ。教育とか構造のこととか、語り出したら止まらなくなっちゃう（同笑）。」「自分のことより学生のことや社会還元のことばかり。でも…だからなのかな、人の心をつかむんですよ。」  
「うん、そんな一途さを尊敬します。」  
超一流の知識とスキルを惜しみなく与え、それをしっかり受け止めて応えていく。教授と学生の理想的な関係がここにある。まさに日本女子大開学の精神そのままに。

